

## いそそぶの話

腹ふくらした狐

狐が大層お腹を空かせて、山の中を歩いて居りましたが、大きな櫛のウロの中に、誰が置いたものか、澤山な御馳走のあるのを見付けて、その中へ這入り込んで、腹一杯食べました、さて、出ようといふ時になると、お腹があんまり一杯になりすぎて、どうしても出られせんから、しきりに苦しがつて、嗚いて居りますと、そこへ連れの狐がやつて来て、よくく其譯を聞いて、申しますには「夫れは仕方がない、あんまり食べ過ぎたのだから、お腹が元の通り這入つた時の様になるまで、そこで待つて居れば出られる」と言ひました。あんまり、たべすぎると、こんな目に遭ひます

獵夫と木樵り

一人の獵夫がりました、あんまり強くはない人でしたが、ある時、山の中で、獅子の足跡を探しながらやつて行きました、途て、木を伐つてる人に遭ひましたから、ひよつと、獅子の足跡を見なかつたか、夫とも獅子の棲家を知つて居ないかと尋ねました。木樵りは「な—に、夫よか、獅子ならどこに居るか、すぐお前に見せて上げ様」と答へました。すると、獵夫は「忽ち眞青になつてガタ／＼戰慄ひだして「イーエ、ありがたう、私の聞いたのは、獅子の足跡です。獅子を探してるのではありません」

眞個に強い人は、言葉と同じ様に行ひが立派なものです。

兎と獵犬

野の中で、獵犬が一匹の兎を見付けて追っかけま

したが、とても叶はなかなったので、途中で止しました、すると小牛どもが、側で見て居て、「大きな姿して小さい兎に叶はないのは可笑しいな」といつて笑ひました、獵犬が言ふには、「そりやそうさ、僕は晝食がほしさに追っかけたのだから、彼は、生命が欲しさに逃げたのだもの」

金の卵を生む鶏

或人が鶏を飼つて居ました所が、毎日金の卵を生みます、そこで其人の思ふにはこんな毎日金の卵を生むので見ると腹の中にはよほど澤山な金の塊が這入つて居るに違ない、といつて一度に夫を取らうといふ考へから、とうとう夫を殺して腹の中を見た所が、他の鶏と、少しも變つた事がなかつたので、夫からといふものは、一つも金の卵を取ることが出来なくなりましたとさ。

獅子と狐と驢馬

或時、此三匹がお仲間になつて、餌食をとりに出かけました。随分澤山な獲物か取れたから、三匹で揃つて歸つて來まして、さて獅子が、此を三匹に分けようといつて、其分け方を驢馬に命じましたので、驢馬は、一々より分けて、同じ様に三に分けて、恭しく獅子に、どれでもおすきなのを、ささにおとり下さいと申し上げました。すると獅子は、非常に怒つて、「この馬鹿め」といつて、たゞ一口に驢馬を食つてしまひました。其次に、狐に、も一度之をお前と己に分け直せといひました。狐は畏まつて三に分けたのを又一つにして其中から、極小ざい一片丈けを自分の分に殘して置いて、其後を獅子の分としてさし出しました獅子は夫を見て、「お前は仲々利口だ、其分け方は

誰から教はつた、餘程甘いじやないか」といひますと、狐は「ハイ、たつた今しがた、驢馬の死んだのを見て夫から學びました」と答へました。

人の不幸を見て、自分で用心する人は幸福です

賀陽宮由紀子殿下の御作文

殿下は本年満九歳にならせられて、只今は京都の竹間小學校の尋常三年の課程を御あさめになつて、おいでいすがまことに御天性が御聰明で他の生徒の模範と仰がれて居られる相です。此頃同校の校長さんの、戦争の御咄をお聞きになつて、大層御感心のあまり、次のお作文を御ついになつて、受持の先生におだしになったので宮の御心の厚いには、だれもかれも感心したと云ふことです。

とし子の話

このごろ、日本はロシヤといくさをして居ります、大阪の女學校の生徒たちがこの夏休みに、方々の病いんへ、いつて兵士の病氣を、みまふてやられました、私はこのことをきいて、かんしんして居りました。こゝに、またかんしんな、人があります。名はとし子、年は十九で國は、えちごです、そしてよい内のお方ですが三百五十里もある、遠い、ひろ島へ兵士のかんでに、ゆかれました、とし子は、ゑびちやの、はかまを、はいて大ぜいの、かんでふ